



報道関係各位

ITホールディングス株式会社

ITHD グループ 2012 年年頭所感

ITホールディングス株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:岡本 晋、以下ITHD)は、グループ各社の「2012 年年頭所感」を発表いたします。

【ITホールディングス株式会社 代表取締役社長 岡本 晋】

情報サービス業界においては、パラダイムシフトともいうべき大きな地殻変動が進行しています。これまでに、当社グループは、TISのGDC御殿山やインテック万葉スクエアなどの最新鋭のデータセンタの開業やアジアを中心とした事業展開など、変化に向けた準備を進めてきました。しかし、パラダイムシフトは大きく、新たな事業展開だけでは不十分であったため、2011年は“聖域なき構造改革の年”と位置付け、TIS、ソラン、ユーフィットの中核3社の合併など、グループ内フォーメーションの大胆な再編や事業所移転などに取り組みました。この構造改革により、当社は強靱な経営体質に変化しつつあります。

当社では、2012年度から新成長期と位置付けた中期経営計画が始まります。この中期計画では、グローバル化が進むお客様へのサービス提供体制の整備、クラウドサービス等、サービス化メニューの拡充を図ってまいります。また縮小気味の日本経済の中でも更なる成長を達成するためのビジネス構造の全面的見直しが必要であります。当社が成長するための鍵として、①ともすれば、縮み志向となりがちな社員の意識変革に加え、②財務基盤の確保、③グループの団結が不可欠となります。新たな観点からグループの団結を強め、意識改革を図り、新しい環境に適応していきたいと思っております。

【TIS株式会社 代表取締役社長 桑野 徹】

2012年の抱負は「スピードアップ」です。

世の中は凄いスピードで変化しています。2011年もEU諸国の金融危機、アメリカの反経済格差デモ、タイの洪水、日本のTPP協議への参加表明など、我々のお客さまのビジネス環境は絶え間なく変化し動いています。それは、我々のビジネス環境も次々と変化しているということでもあります。そこに必要となるのは、「機を見て敏」。つまり変化を知り対策を練りそして実行する、この流れをお客さま以上のスピード感で実施することです。

その為には、各種施策のスピードアップが重要と考えています。社員一人一人が極限まで能力を高めた上で、全社をあげてスピードアップに取り組んでいきたいと思っております。

また、昨年実施した一連のオフィス統合によりコミュニケーションのための物理的な土台が構築されました。社内でのコミュニケーションもスムーズに行くという効果を期待しています。

お客さまのお役にたち、TISが成長する。その為、社員一人一人の能力を極限まで高め、コミュニケーションをよりスムーズに実施し、施策の実現をスピードアップする。この考えを常に意識して2012年は活動していきたいと思っております。

【株式会社インテック 代表取締役社長 金岡 克己】

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

2011年は、記憶に残る年といつてよいでしょう。東日本大震災、福島第一原子力発電所の事故、7月の集中豪雨、タイの大洪水など、日本経済に負の影響を及ぼす自然災害が次々に起こりました。また、今年には主要各国で、指導者の交代が予定されているなど厳しい外交情勢が懸念されます。

このような国際、国内の情勢のもと、大幅な景気回復が達成されるとは思えません。一部の企業に利益の回復が認められますが、デフレの波は治まる気配を見せていません。

幸いにして、上半期のインテックグループは増収増益を達成することができました。しかしながら、上記の情勢を踏まえ、一層気持ちを引き締め、厳しい覚悟で2012年に臨んで参ります。

昨年亡くなったスティーブ・ジョブズが最も強調していた言葉、それは「Passion(情熱)」です。彼の足跡をたどると「情熱なきものは去れ」ジョブズがそう語りかけているような気がします。

インテックは、情報セキュリティの確保、プロジェクトの品質向上、営業活動の絶対量増加、新サービスの創出、クラウド時代への対応などに努めてきました。相応の成果を収めてきたものと考えています。しかしながら、まだ、何かが不足している。それは、インテックの本来の力が発揮されていないという印象、不完全燃焼をじっと見つめているとでもいうべき感覚でしょうか。

2014年1月の創立50年に向け、インテックは覚醒します。

ITをとおして社会に貢献するという自覚に、常に新しいものを創造する喜びに、自らの潜在能力を最大限に発揮しようとする意思に、グローバルな変化に果敢に挑戦する勇氣に、よりよい明日を築き上げていくという決意に・・・。

【株式会社アグレックス 代表取締役社長 山口 勝規】

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は景気回復の期待とともに幕をあげたものの、東日本大震災に見舞われ、その後も欧州経済危機やタイの大洪水などが重なり、試練の一年となりました。経済情勢はいまだ立ち直らず、不透明な状況が続いております。

こうした中、当社におきましては昨年10月に機構改革を実施し、BPO事業とシステム事業の融合を図って、問題解決能力の向上と競争力を強化するとともに、業界のパラダイムシフトに対応した組織体制を構築いたしました。

本年は、有力企業とのアライアンスを推進し、当社のノウハウをプラスした新たなビジネスを創出するとともに、お客様と協調してアジア圏でのビジネス展開を図るべく第一歩を踏み出す所存です。

本年4月からは新中期経営計画の3カ年が始動します。これまでに築き上げてきた事業基盤をさらに磨き上げ、新しいビジネスモデルを取り入れながらアグレックスブランドを確立していく計画です。

本年もどうぞご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

【クオリカ株式会社 代表取締役社長 西田 光志】

2012年度のスタートにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

まず、昨年の東北・関東の大地震で被災された皆様・関係の皆様にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

我々も省エネ型のワーキングスタイルや災害に強いクラウドセンターのあり方などを通して日本の再興に貢献する必要があると考えており、昨年、全社員のPCを仮想デスクトップ環境に移行し、在宅勤務環境の整備と消費電力の削減を実現致しました。今後は自社導入・運用で得たノウハウを活かしBCP(事業継続計画)、DR(災害対策)の対応を検討されているお客様にも仮想デスクトップ環境の構築を推進していきたいと思っております。

また、昨年はグローバル化に向けて、上海子会社の事業体制を強化するなど中国事業の基盤を確立致しました。本年はさらに事業を拡大し、先進技術を取り入れた高品質・高付加価値なITサービスをグローバルレベルで提供することで、お客様のビジネスに貢献していきます。

【AJS 株式会社 代表取締役社長 藤田 純司】

昇龍興年、昨年はお世話になりました。昨年10月に子会社 AJS ソフトウェアを吸収合併し、宮崎県延岡の拠点を強化致しました。AJSは長年、両国の地で仕事をして参りました。来る二月、多くのITHDグループ会社と共に西新宿に移転します。心機一転、気持ちも新たに再スタートです。グループ会社同志の情報共有、シナジー効果により、一層お客様にお役にたつよう励みます。昨年、旭化成向けの大型プロジェクトがスタートしました。病院向けの放射線がん治療システムや製造業向けの様々な業務システムも多くのお客様に利用して頂いております。社員六百余名とパートナーが一緒になり、お客様がワクワクする仕事をさせて頂きたく努力して参ります。

昇龍興年、空に龍が昇るのにあやかり、皆様と共に、AJSも事を興し、昇っていきたく思っております。何卒、宜しく願い申し上げます。

以上

◆ITホールディングスグループについて

ITホールディングスグループは、様々なお客さまをITで支援するITエキスパート集団です。進化し続ける企業グループとして、グループ各社の個性を活かし総合力で応えます。